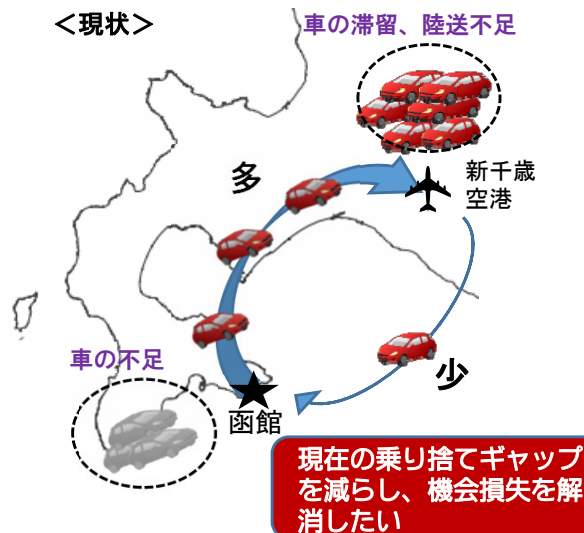


①事業の目的・背景

- 函館地区では、7月～9月のドライブシーズンに道南でレンタカーを借りて道央で返却するという方向の流れが極端に多い。
- 本事業では、乗り捨てギャップを陸送で補うことによる「陸送経費の負担増」と、陸送が追いつかないことによる「機会損失」の実態を把握・共有し、改善策の検討を行った。

<現状>



②事業の実施内容

【調査対象地域】函館地区

レンタカー乗り捨て実態把握（事業者への聞き取り調査）

函館地区レンタカー協会加盟事業者から、平成29年度の乗り捨て実績を収集・整理し、繁忙期の乗り捨てギャップがあることを確認

発注者、受注者、レンタカー事業者によるワーキング開催

H30.8.29(水)
函館地区レンタカー協会、レンタカー事業者5社をまじえたワーキングを開催



実証実験の実施および結果のとりまとめ

10月に学生グループ4組を対象に、千歳発函館着の乗り捨て利用をモニタ体験していただき、満足度等のアンケート結果を取得

課題の抽出
改善策の検討
報告書とりまとめ

調査結果を踏まえ、千歳IN函館OUTの促進策、回送の円滑化に向けた検討を行い、報告書にとりまとめた

③調査結果

■乗り捨てギャップの要因

- ①道内観光における、新千歳空港への集中傾向
- ②旅行サイトにおける費用比較で、千歳IN函館OUTは不利
- ③航空便数、事業所営業時間の関係で、千歳OUTの利便性が高い
- ④旅行会社のサイトでは、函館IN千歳OUTを推奨
- ⑤新幹線開業により、新函館北斗IN千歳OUTが増加

■乗り捨てギャップ解消策の検討

- ①現状、函館地区における車両不足を自力回送や、予約ストップ等で対応
- ②自走業者は割高となるため、回送手段の工夫（人材発掘等）が必要
- ③千歳IN函館OUTを促進するキャンペーン商品の開発が必要

■乗り捨てギャップ解消に向けた課題

- ①乗り捨て無料に伴うサービス低下が懸念される
- ②地域限定（札幌→函館間のみなど）の割引サービスは実現困難
- ③札幌在住者の活用に向けては、千歳から札幌への回送が必要
- ④回送業務の人材強化にあたり、個人との契約は難しい

■実証実験の結果

- ①札幌の学生にとって、レンタカー利用の函館観光は高い満足度
- ②観光の内容、体力的な理由から、料金が妥当なら、片道利用も可能
- ③無料に伴う、窓口手続きの不親切は低評価

■まとめ

- (1) 千歳→函館のワンウェイ利用促進に向けて
 - 旅行会社への協力依頼、千歳IN函館OUTの商品PR
 - スマホアプリ、AI等による乗り捨てギャップ調整
- (2) 回送の円滑化に向けて
 - 学生、多方面の人材の発掘・活用
 - 千歳における最低限のマネジメントのため、人員派遣などを検討・実施することが望ましい